

## コラム 氏神様は川向こう～豊里鎮守 大宮

昭和23年(1948)当時、橋寺住宅へ引っ越ししてきたとき、とても不思議だったことは、氏神様が川向こうにあるということだった。淀川という大河でありながら、橋も無いのに……。友人にこのことを言うと、「あそこは昔、川底やったんやで」と言われたことがあったけれど、日常の多忙にかまけ、あまり信仰心もないまま、いつの間にか忘れ去ってしまっていた。

ところがである。地域史の勉強をかねて、川向こうの豊里鎮守 大宮にお伺いすることになった。宮司さんはとても優しく、また、歴史に詳しくて古事来歴をできる限り話して下さった。紙面上、その詳細を記すことができないので残念であるが、主祭神は安閑天皇(531～535)で、この地は聖徳太子(574～622)の伝承が多く、豊里町の名は太子の別称「豊聡耳皇子」から付けられたという。

淀川の改修前は旧淀川北岸の堤に面しており、千年にあまる楠の大樹木が数本、杉松の大樹木が数本、2丁余りの竹藪とともに千古を語る鬱蒼とした森厳なる境内であった。当時、淀川を上る船は、この森を目標にして風に帆をはらませたり下ろしたり、また、舵をきって帆を逆に巻き上げるなどをして川を上っていった。徳川時代の三十石船も、この森が灯台の役目をして大宮大明神・大宮大権現と親しみ、あがめられてた。(古地図に逆巻の地名が見られる)

明治33年(1900)5月の淀川改修工事で境内は新淀川の河川敷となったため、老樹・竹藪を伐採して、現在の位

置に遷座された。氏子は南岸北岸に住み別れ、氏地は真っ二つに分断された。

大正14年(1925)に大阪市へ編入されたときは、南も北も東淀川区であったが、昭和17年(1942)に南岸は旭区となり、町名は旧来のまま橋寺町・豊里・豊里三番町と変わらなかった。

昭和46年(1971)。旭区の町名区画が変更され、太子橋・大宮・中宮・生江が北部に連なることになり、氏地の境は不明となった。しかし、昭和45年(1970)には平太の渡し船に代わって豊里大橋が完成し、南北の往来はもとより、大阪内環状線の大動脈がこの大宮正面を走り、この土地の発展はとどまることを知らない。

ちなみに平成23年(2011)秋。このお宮さんのお湯神事なるものを拝見した。「百聞は一見に如かず、まずよくご覧になってください」と言われ、真ん前に出て事の一部始終を拝見した。おりしも境内には出店が所狭しと賑わい、親子・孫連れや若いカップルの参拝者もあとを絶たず、大宮の弥栄を目の当たりにすることができた。

その昔、お互いの先祖が今は川底となっている地上でどんな暮らしをしていたのだろうなどと想像しながら、なんとなく満たされた思いで帰途に着いたのだった。翌日ポストに撒撰(お下がり)が入っていた。氏子総代さんかと思ったら、「宮司さんが自転車で届けてくれはったんと違いますか」とのことだった。豊里大橋を自転車で……。氏神様だと思った。



写真■豊里鎮守 大宮

## コラム 太子橋の旧地層を撮る～堤防内側の根掘現場に遭遇

早朝散歩の途中、堤防工事現場(太子橋1丁目26番地先)で堤防内側(町宅側)の裾土留石壁の根掘をしている光景に遭遇した。

かねて、想像していたとおり、完全な砂層であった。写真①は現場全体、写真②は根掘り場所、土の色は上部は黒く(盛土)、下部は白っぽく、旧地盤砂層である。

地下地層の全容は地下鉄谷町線の工事記録として交通局地下鉄誌の太子橋今市駅の地質縦断図がある。これによれば、表土の地下7～8メートルに粘性土があり、その上には砂性土で旧河川敷であったことを表し

ている。子どもの頃、台風(ジェーン台風など)など来襲すると堤防一杯の流水に退避命令が出て、飼っていた山羊とともに避難したものである。

今では治水工事のお陰で平安な生活が送れることに感謝したい。



写真①

写真②

## コラム

### 地域の方に聞く、昔の様子

旧西成郡(現東淀川区)天王寺庄村平田地区の淀川大改修後に淀川左岸に移転した方の話  
(昭和17年(1942)に旭区に編入された地区の方)

- 70才代後半以上の方々に  
お聞きした話
- 渡船で対岸の豊里小学校へ通学していた。だから同級生は、対岸の豊里地区にたくさんいる。太子橋地区にはあまりいない。
  - 雨で淀川が増水して渡船が止まった時、歩いて堤防上を赤川まで行き、赤川の鉄橋を渡って学校へ行った(女性)。
  - 水が少ない時、裸になり教科書を頭にくくりつけ淀川を泳いで学校へいった(男性)。
- 60才なかばの人にお聞き  
した話(全て同一人物)
- ◎ 昭和30年ごろの堤防の嵩上げ工事の時、小型の蒸気機関車がトロッキを引っ張って土を運んでいた。
  - ◎ 堤防上、橋寺方面からレールがあり、今市中学校辺りでレールが河川敷に下っていた。
  - ◎ 蒸気機関車の釜の火のついた炭灰をよくもらった(炊事用の種火にするため)。
  - ◎ 嵩上げ工事前は、今より2～3メートル低かった(水防倉庫ぐらい)。
  - ◎ 嵩上げ前、淀川の水が堤防すれすれになった時、おじさんが勤めていた電々公社の倉庫(太子橋小学校の向かいの今アンテナが建っている所、鉄筋建)に避難した。
  - ◎ 大水の時、川の中を牛が流されていくのを見た。
  - ◎ 昭和55年(1980)の時は、今の堤防の高さまで川の水がすれすれになった。
  - ◎ お父さんが渡船で東淀川区豊里に農作業にいった。
  - ◎ 太子橋小学校に通っていた時「古市小学校分校」の看板があった。
  - ◎ 今市中学校に通っていた時、高射砲陣地の後が残っていた。
  - ◎ 淀川の東淀川側に夜、浚渫船が停泊していた。夕方乗組員がボートで太子橋側に来て、そして京阪市場で食事の買い物をして船にもどっていた。船上生活で明かりはランプで、犬も飼っていた。
  - ◎ 枚方よりだんなさんが芸者衆と船で川下りをしていた。船頭さん以外にも漁師さんも乗っていて、投網で魚をとり調理していた。平太の渡しあたりで船頭さんが投げたロープを引っ張り船を岸に寄せるのを手伝った(褒美はアメ)。だんなさんと芸者衆は船から下りて滝井駅へ、そして京阪電車で枚方へ、船頭さんと漁師さんは船で枚方へ引き返していた。
  - ◎ 堤防の上から、夜、近鉄電車(枚岡～石切)の明かりが見えた。
- 約30年前に60～70位の方からお聞きした話  
(上辻霊園の近所の人)
- 国道1号の太子橋交差点の北西角の歯科医院(現在マンション)の所に、摂津と河内の国境の道標があった(話を聞いた時にはなかった)。
  - 上辻霊園の前の道幅は今の半分位で残りは土手になっていた。戦後そこで食物を植えていた。